

統計局総務課統計専門職  
〔国際第二に関する業務〕

**丸山 美幸**  
MARUYAMA MIYUKI

平成 23年 4月 総務省採用  
人事・恩給局公務員高齢対策課  
平成 25年 4月 行政評価局行政相談課  
平成 26年 5月 統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室  
企画指導第二係  
平成 29年 2月 統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室  
企画指導第二係  
平成 29年 7月 統計局総務課国際第二係  
平成 30年 4月 現職



## 国際的な視点で、協力の先を見据えて

### 国際協力の現場で

私が現在担当しているのは、統計分野の国際協力に関する業務です。海外からの視察団や研修生の受入れの際の窓口となり、統計に関する海外との情報交換を推進するのが主な仕事です。

最近の大きな動きとして、2018年8月に、統計局とベトナム統計総局との間で公的統計ICTシステムの導入に関する覚書の署名が実現しました。これは、日本とベトナムの相互交流の中で、統計局が使用している技術の価値が認められた結果の一つといえます。このほかに、統計局では、国際会議を開催して国際機関の職員や各国の政府統計職員を集め、統計の国際比較性の向上やデータ作成、活用などについて議論する機会を設ける取組みも行っています。

統計局で行っている国際協力は多々あり、短期間で目に見える結果が出るものばかりというわけではありませんが、その過程には常に新しい発見があります。まだまだ発展性があるという意味でも、やりがいのある仕事だと思います。

### 助け合い、成長できる場所

統計の作成には、調査の企画設計、実施、集計、公表というプロセスがあり、統計局はそのすべてに関わっています。もちろん、同じ人が全部を担当するということではなく、分担して業務を進めていきます。また、調査の過程では、地方公共団体、民間企業、調査員や調査の対象となる方といった様々な人の協力を得ることが欠かせません。そのため、統計局には、組織としてチームワークを大切にする風土があるように感じられます。

総務省には統計局の他にも様々な部局があり、人事異動によって部局をまたがる異動をすることもあります。他府省や地方自治体に出向している職員や、海外留学している職員もいます。私自身は、これまで、統計局以外の部局の国際行事や、皇居で行われる式典の手伝いを経験する機会などもありました。自分次第で幅広く経験を積むことができるのが、総務省の大きな魅力だと思います。

### Q 総務省を志望した理由は？

A 総務省には幅広い業務があり、やってみたいと思う業務が複数あったため志望しました。統計行政に関しては、「統計は国の羅針盤」というキャッチコピーが印象的で、携わりたいと思うきっかけになりました。説明会や面接の際に職員の雰囲気が良いと感じたことも、大きな決め手になりました。

### Q 仕事をする上で心がけていることは？

A コミュニケーションを大切にすること、人と協力し合うことです。仕事の中で疑問に思ったことや不安に思うことがあったら、早めに共有することで、大きな問題になるのを防ぐことができます。一緒に働く人は頼りになる人ばかりなので、自分にはない視点や知識を教えてもらい解決の糸口が見つかる、ということもよくあります。

Private  
Time

休日は、好きなコンサートに出かけたり、友人と会ったり、季節の花を見に行ったりと、のんびり過ごす時間を大切にしています。楽器の演奏や、ジムでの運動も良い息抜きになっています。休暇を取って旅行に出掛けて、その地の歴史や文化に触れたり、美味しいものをたくさん食べたりしてリフレッシュするのも大切な時間です。

